

DO FOR OTHERS
150TH
ANNIV.



MEIJI GAKUIN
UNIVERSITY
明治学院大学

マスコミ関係各位

2012年7月3日

明治学院大学キリスト教研究所主催

アウシュヴィッツのコレベ神父・原画展「絶望からの希望」記念講演

「語りつぐ平和への想い —ある作家の体験から—」

7月10日から明治学院大学キリスト教研究所において、アウシュヴィッツ強制収容所へ送られたコレベ神父を描いた原画展「絶望からの希望」が始まります。その一環として、作家の早乙女勝元氏による記念講演「語りつぐ平和への想い —ある作家の体験から—」を開催します。

早乙女氏は12歳で東京大空襲を経験。働きながら文学を志し20歳の時に「下町の故郷」を出版し、1994年には自作の映画「戦争と青春」の原作・脚本で、日本アカデミー賞特別賞を受賞。2002年に「東京大空襲・防災資料センター」初代館長に就任されています。コレベ神父関係の著書には、『アウシュヴィッツのコレベ神父』、『母と子でみるアウシュヴィッツ』があり、今回は東京大空襲での自身の経験とあわせてアウシュヴィッツのコレベ神父に触れながら、平和の尊さ、戦争の悲惨さについて語っていただきます。ぜひこのイベント告知と当日の様子を取材していただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

* マキシミアノ・コレベ神父(1894～1941)

ポーランド生まれ。カトリック司祭(聖母の騎士修道会)として1930～1936年には長崎でも布教活動や孤児院の設立活動を行った。ナチスに批判的として41年にアウシュヴィッツ強制収容所収監。脱走の見せしめとして処刑されることになった妻子ある男性囚人の身代わりを自ら申し出、餓死牢に閉じ込められ、最後は毒殺される。

* ミェチスワフ・コシチェルニャック(1912～1993)

ポーランド生まれ。画家。アウシュヴィッツで囚人となる。そこで、身代わりとなり、餓死刑に処せられたコレベ神父の最後の姿を隠れてスケッチする。「身代わりを申し出る瞬間」「囚人服で祈りをささげる姿」「看守に暴行を受ける姿」などのペン画が残されており、原画展ではアウシュヴィッツ平和博物館(福島県白河市)が所蔵している11点を展示。

記念講演「語りつぐ平和への想い —ある作家の体験から—」 ※入場無料、申込み不要

■日時: 7月13日(金) 16:25～17:55

■講演: 作家 早乙女 勝元(さおとめ かつもと)氏

主な作品 『東京大空襲』 『戦争を語り継ぐ』 『下町っ子戦争物語』など

■場所: 明治学院大学 白金キャンパス 2号館2401教室

JR品川駅・目黒駅よりバスで10分 東京メトロ白金高輪駅、白金台駅より徒歩7分

※お車でのお越しはご遠慮ください。

■お問い合わせ: 明治学院大学キリスト教研究所 Tel 03-5421-5210(平日10:00～17:00)

◎アウシュヴィッツのコレベ神父・原画展「絶望からの希望」 ※入場無料、申込み不要

■日時: 7月10日(火)～20日(金) 11:00～17:00(土日祝日は除く)

■場所: 明治学院大学 白金キャンパス 本館9階 キリスト教研究所

取材のお問い合わせは…

明治学院大学 広報室 担当: 渡辺、板橋

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 Tel: 03-5421-5165(直通) Fax: 03-5421-5185

koho@mguad.meijigakuin.ac.jp

http://www.meijigakuin.ac.jp